

ネット依存症の診断基準の早期確立と有効な対策の検討について

神奈川県、横浜市、川崎市及び相模原市の四縣市は、子どもたちの健全な育成環境を整えていくため、小学生、中学生、高校生を対象としたインターネット利用の実態調査を実施し、ネット依存への傾向も含めた子どもたちのインターネット利用の実態を把握するとともに、今後のネット依存から子どもを守るための効果的な方法について意見交換を行い、共同で研究や検討を行ってきた。

一方、ネット依存症については、国際的にも治療ニーズが高まっており、神奈川県では、依存症治療で全国的に有名な「国立久里浜医療センター」と連携して、ネット依存に悩む本人・家族に対して、情報提供や相談対応を行っている。

しかしながら、ネット依存症は、現在のところ、世界共通の診断基準である「精神疾患の診断と分類の手引き（DSM）」や「国際疾病分類（ICD）」のいずれにも収録されていないことから、今後、効果的なネット依存対策に取り組んでいくため、次のとおり意見を表明する。

国において、ネット依存に関わる世界共通の診断基準が早急に策定されるよう WHO 等の国際的機関に働きかけるとともに、有効なネット依存予防策について検討し、モデルとなる対策を提示すること。

平成 26 年 月 日

文部科学大臣 下 村 博 文 様
厚生労働大臣 塩 崎 恭 久 様

神奈川県知事 黒 岩 祐 治
横浜市 長 林 文 子
川崎市 長 福 田 紀 彦
相模原市 長 加 山 俊 夫